

第7回「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」結果概要

1. 日 時：平成29年1月27日（金）12時57分～13時54分
2. 場 所：三井ガーデンホテル千葉 3階 平安南
3. 出席者：別紙のとおり
4. 議事概要

（1）開会

○司会 会議の開催に先立ちまして、委員の皆様にお知らせいたします。本会議につきましては、2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議設置要綱第6条により、原則として公開するものとしておりますので、御了承ください。

それでは、ただいまから、第7回2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます県東京オリンピック・パラリンピック推進課の大野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

（2）あいさつ

○司会 それでは、次第により会議を進めさせていただきます。

本会議の会長である森田知事から御挨拶申し上げます。

○森田会長 皆様、こんにちは。着席にて失礼いたします。

第7回推進会議の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、御多忙の中、御出席を賜り、心から厚く御礼を申し上げます。

東京オリンピック・パラリンピックの開催まで、早いもので、あと3年半となっております。昨年12月には東京オリンピックのサーフィン競技の会場が一宮町の釣ヶ崎海岸に正式に決定し、県内でオリンピック・パラリンピック8競技が開催されることになりました。先日発表した県の平成29年度当初予算案では、競技会場となる幕張メッセの大規模改修や、サーフィン会場となる釣ヶ崎海岸地区における自然公園施設整備に向けた環境調査、観光客の受入体制整備、バリアフリー対応などを計上し、大会開催に向けた取組を加速化させているところでございます。これらは県としての責任に基づいてきちんと取り組んでいかなければならない経費であり、こうした取組を通じて大会の成功と将来の千葉県の発展に貢献してまいりたいと、そのように思

っているところでございます。

本日は、大会開催に向けた行程表や、千葉県戦略に係る取組について御協議を賜ります。委員の皆様におかれましては、2020年、さらにはその先を見据えて、専門的、総合的な立場から忌憚のない御意見を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。（拍手）

○司会 ありがとうございました。

（3）委員紹介

○司会 続きまして、今回新たに委員に就任いただいた方々を御紹介させていただきます。

まず、和泉善久委員でございます。

○和泉委員 千葉県商工会連合会会長の和泉でございます。どうかよろしくお願いします。

（拍手）

○司会 続きまして、大海英一委員でございます。

○大海委員 日本サーフィン連盟千葉東支部の支部長をやらせていただいています大海と申します。よろしくお願いします。（拍手）

（4）議事

○司会 これより議事に入りますが、進行につきましては石井議長にお願いいたします。

なお、知事は、この後公務がございますので、ここで退席させていただきます。

○森田会長 申しわけございません。よろしくお願いします。

○石井議長 それでは、これより議事を進めます。

まず議題（1）は、東京オリンピック サーフィン競技の開催についてです。事務局から説明をお願いいたします。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長 事務局、千葉県総合企画部東京オリンピック・パラリンピック推進課でございます。

それでは、東京オリンピック サーフィン競技の開催につきまして御説明をいたします。

資料1をご覧いただきたいと思います。

まず、先ほど知事からございましたように、日本時間12月8日に一宮町釣ヶ崎海岸がサーフィン競技会場として正式に決定をされました。競技の概要等につきまして、まだ正式に伝わっていないところがございますので、資料の1の日程、参加人数等は前回お配りした資料に追加

はございません。今回の資料の中で、2の(3)に県内の有望選手といたしまして、海外で活躍している大原洋人選手と稲葉玲王選手を紹介しております。両選手とも、先月、千葉県オリンピック特別強化指定選手に追加指定されたところでございます。

続きまして、釣ヶ崎海岸サーフィン会場につきまして、資料1の裏面で御説明をさせていただきたいと思っております。

釣ヶ崎海岸は、県立九十九里自然公園の最南端に位置しておりまして、サーフィンの名所として知られ、美しい海岸風景とスポーツの魅力を一体として体感できる場所でございます。県といたしまして、この大会を機に多くの方々に九十九里自然公園の魅力を味わっていただける自然公園施設として園地の整備をすることを考えております。また、地元一宮町が、その園地の上に大会終了後も自然に親しむことができる恒久的な施設を整備したいとの意向がありますので、県といたしましても、地元一宮町と連携、協力しながら整備を進めていきたいと考えております。

なお、詳細につきましては、先ほどございました環境調査の結果等を踏まえながら、今後検討してまいりたいと思っております。

また、この会場は海岸にございまして、津波等の災害等の対策も必要となるところでございますので、県といたしましても、地元一宮町と連携をしながら、その防災対策についても考えてまいりたいと思っております。

東京オリンピック サーフing競技の開催につきましては以上でございます。

○石井議長 どうもありがとうございました。

それでは、今のサーフィンについて、何か御意見とか御質問があればお出しいただきたいと思っております。

いかがでございますか。よろしいですか。

それでは、次に進みます。議題の(2)でございますけれども、東京オリンピック・パラリンピックに向けた行程表についてということで、事務局から説明をお願いいたします。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長 続きまして、東京オリンピック・パラリンピックに向けた行程表につきまして御説明をいたします。

資料2-1をご覧くださいと思います。

前回の会議におきまして、2020年に向けました取組に関するオール千葉の行程表を作成するに当たりまして、まず県が主体となって取り組む事項をお示しすると申し上げたところでございます。アクセスルートや輸送、警備など、組織委員会の具体的な計画がまだ示されていない

ために、会場周辺の環境整備など、まだ進捗がはかばかしくない取組もございますけれども、今後想定される取組を含めまして、今後県が進めていく取組を幅広く戦略ごとに取りまとめたものが、この資料2-1になります。今後は、この行程表をベースにいたしまして、関係者の皆様の取組を伺いながらオール千葉の行程表を作成したいと考えております。

それでは、県の取組につきまして御説明いたします。

1 ページ目、戦略0でございますが、こちらでは上から2番目の矢印、幕張メッセの改修につきまして、大会開催に資するよう、トイレのリニューアル、エレベーター増設などの機能強化を図ってまいります。その下のサーフィンにつきましては、先ほど御説明いたしましたとおりでございます。また、幕張メッセの3つ下の矢印でございます会場周辺のバリアフリー化の検討なども今後進めてまいります。

続きまして、1枚おめくりいただきまして2ページ目でございます。

戦略1、キャンプ誘致・国際大会・MICE誘致でございます。既に昨年、2020年のオリンピックにつきましては、アメリカ陸上チームやオランダチームなどのキャンプ誘致に成功いたしました。この2020年大会とあわせまして、2018年の世界女子ソフトボール選手権の事前キャンプ誘致に向けた取組などを進めたいと考えております。

続きまして3ページ目になります。

中ほどになります。戦略4、バリアフリー化の促進でございます。このバリアフリー化につきましては、ノンステップバス、あるいは駅のバリアフリー設備の整備促進を図るとともに、バリアフリーマップの充実を図るなど、ハード、ソフト、心のバリアフリーを推進してまいります。

続きまして、1枚おめくりいただきまして4ページ目、戦略5、6、魅力ある観光地づくり、外国人受入体制でございます。こちらは戦略5のほうの一番上の矢印、観光地のトイレ整備に対する補助や、戦略6の上から2番目、公衆無線LANの整備支援などにより、外国人を初めとした観光客受入体制の整備を図ってまいります。

続いて5ページ目の中ほどになります。

戦略8、機運の醸成・国際交流の促進になります。右から2列目の具体的取組の欄になりますけれども、こちら、文化プログラム関連イベントということで、伝統文化と新しい文化が織りなす千葉文化の発信を今後図っていきたいと考えております。また、その下でございますが、JOC等と連携をいたしましたオリンピック・パラリンピック教室の実施や、学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進を図りたいと思っております。さらに、5ページの一

番下のボランティアなどの取組でございますが、こちらにつきましては、この後の議題のほうで御説明をいたします。

資料2-1につきましては、簡単でございますが以上でございます、続きまして資料2-2をご覧くださいと思います。資料2、「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた県の取組に関する行程表」関連資料でございます。

この資料は、行程表に記載された取組のうち、県が平成29年度に実施を予定している主な取組を抜粋したものでございます。具体的な取組といたしましては、2ページ目でございます幕張メッセの大規模改修、あるいは県立九十九里自然公園の整備など、先ほど御説明した部分の詳細をこちらに記載させていただいております。

また、4ページ、5ページ目、戦略5、6でございますが、今まで専門部会、5、6での検討を踏まえて作成した外国人観光客向けの千葉周遊コースのPRや通訳ボランティアの養成・活用に関する検討などを予定しているところでございます。

東京オリンピック・パラリンピックに向けた行程表の説明は以上でございます。

○石井議長 ありがとうございます。

御質問とか御意見がありませんか。

これは私の感じですけども、全体的にちょっと遅れているんじゃないかというような感じがしてならないんです。実際にどうなんだろう。会場の大半は幕張メッセなので、この辺は藤野社長、何か御意見みたいなものはありますか。

○藤野委員 オリンピック・パラリンピック関連の幕張メッセにおける準備状況でございますが、本日の資料の中でございますように、施設の整備の関係では、県の所有施設でございます国際展示場につきまして、平成28年から42年度までの15カ年の大規模修繕事業計画が存在しておりましたが、その中でオリンピック・パラリンピックまでに整備が必要なものについて優先的に進めていただくということで今取り組んでいただいております。今後、そのスケジュールに従って県施設の整備はなされていくものと考えております。

それから、一部の競技につきましては、幕張メッセの会社の所有施設でございますイベントホールが使われる予定でございますが、これにつきましても既に電気施設の更新、トイレのリニューアル、2階固定観覧席の更新などの工事は既に完了しております。今後1階アリーナへの可動観覧席の駆動装置の更新、エレベーターの新設、デジタルサイネージの新設などの工事を計画的に進めていくこととしております。

議長のほうから御指摘いただきました進捗の遅れの関係ですが、ハード面ではそうしたこと

で今進めておるわけですが、具体的な競技がいつからいつまで行われ、それに伴ってどの期間、幕張メッセの施設が他の使用に供せなくなるのかといったことにつきましては、いろいろ協議は進めておりますが、使用が決まってからもう1年以上たつわけですけれども、現時点で大きな進展、具体的な決定には至っておりません。また、前年に行われる可能性がございますプレ大会等については、おおむねの時期についてのお話は頂戴しておりますが、確定しているわけではございません。御相談できるところは相談して進めておりますけれども、御指摘がございましたように、もう残り3年半というタイミングでございますが、まだ決まっていない事項が多々あるのが現状でございます。

以上でございます。

○石井議長 ありがとうございます。

ほかに直接、ちょっとこれでは間に合わなそうだとか、そういうふうな意見がございますか。いずれにしても、詳細については、専門部会で決めることになると思いますが、「これ、ちょっと早めてよ」みたいな、そういうところがあれば言っていただきたいと思うんですが。

○内藤（久）委員 順天堂大学の内藤でございます。

ここの議題の（２）のところでは行程ということでございますけれども、今、戦略を示していただいたんですが、大学をキーワードとして行程が進むものがちょっと盛り込まれていないように思います。戦略の２では競技力の向上や普及ということで、これは我々の大学ですとスポーツ健康科学部という学部を持っておりますので、そういう面では協力できていると思うんですが、戦略の８にある機運の醸成というようなこと、このあたりに、千葉県内には多分40以上の大学があると思うんですけれども、うまく協力をして、もっと機運の醸成を図るとか、若者をリクルートするとか、こういうものもこの行程表の中に盛り込んだ形で今後進めていく必要があるのではないかなと考えております。

実際には、昨年12月7日には県と我々大学のほうでゴールボールの体験会を開かせていただきました。そのほか、障害者スポーツに関しましては、教員を養成する大学が県内にはたくさんございますので、そういう大学で障害者スポーツの資格に関するようなもの、あるいは特別支援の学校の教員の養成の過程、あるいは、今、学習指導要領の改訂が進んでおりますけれども、よりインクルーシブな教育ということで、特に支援学校に限らず、普通学級にいる少し障害を持っている子供たちにもっともっとスポーツを、ただ見ている、見学をしているだけではなくて、参加できるようにするためには、教員養成の過程で、これから教員になっていく人たちの教育が必要と、そういう取組も我々は今始めているところでございます。そういうこと

を含めまして、これにかかわる県内の大学の全面的なバックアップ体制、あるいはそういうものを含めて若い力を結集する、こういうものも少し行程表の中に織り込んでいただいて、もう3年半しかありませんので乗り遅れないように頑張りたいと思いますので、事務局のほうで少し御考慮いただければと思います。

○石井議長 貴重な意見をありがとうございました。この委員の中にも各大学から出ていただいています、例えば城西の渡辺さんもいつも非常に貴重な意見をいただいています。それから、副議長が千葉大ですから、やはり意見をいただいているんですけども、今のポイントは非常に大事ですよ。ボランティアの話が後半に出ると思うんですけども、実際、東京オリンピックのときは余りボランティアというのが表に出ていなかったんですね。各大学の協力であればかなり進んだということだったと僕は記憶しているんですけども、そういう意味では県内の大学の協力というのは欠かせない問題ですから、これはちょっと含めた行程表の中に入れて、ちょっと検討していただきたいと思います。よろしくお願いします。

それではどうぞ。

○渡辺委員 議長、ありがとうございます。また、順天堂大学さんのほうの御意見、全く同意見でありがとうございます。

ただ、これは1点抜けているなと思いますのは、留学生の活用です。留学生が全く抜けていて、日本人学生を対象としたボランティアガイドだとか、そういった形の育成を図るのは限界があるように思えます。日本語ができる留学生というのは、母国語である中国語、英語というのは十二分できるわけですので、この活用というか、組み合わせみたいところで一つ考えていただきたいと思います。

それからもう一点は、非常に細かい話で大変恐縮でございますけれども、今、観光ルートを専門部会のほうでつくっていますので、その観光ルートと観光ガイドのボランティアと組み合わせをしないか、これらがばらばらに動き出しますと全く意味がなくなってしまうように思えます。つまり、地べたというか場におろした中での人材育成をどうするかということ、やっぱり今後もう少し詰めていかなければならないと思います。観光通訳ガイドはこちらでやっています、観光ルートはこちらでやっていますというふうにして、多分どこかでドッキングするお考えだと思いますけれども、このことも少し念頭に置いていただければと思います。

以上です。

○石井議長 ありがとうございます。

そこのところは僕も一番大事だと思って、先般も担当の内田課長に、司令塔をしっかりとさせ

ないとばらばらになっちゃうぞという話はしてあります。ですから、そういうことを考えてこれから進めていただけると思いますが、同じような意見も千葉大の新倉教授からも出ておりまして、千葉大は特にアジアからの留学生が非常に多いんですね。この人たちも非常に前向きだというふうに私は聞いています。ですから、せっかく前向きに協力していこうという人たちは、それなりにやっぱりやってもらわないといけないと思いますので、そういう問題はこれからの結構大きなポイントになりそうな気がします。

そういうことも含めて、県の企画部長から何かありますか。遠山さん、お願いします。

○遠山総合企画部長 今の3点の方々からの御質問、御要望に対して、まず最初に幕張メッセさんのほうからのお話がありました。これにつきまして総合企画部長、遠山からお答えさせていただきます。

報道等でも一部お聞き及びの方もいらっしゃるかと思います。現在、東京オリンピック・パラリンピック、東京都以外にも自治体、私どもを含めまして開催される予定になっております。その関係の自治体の協議会というのが組織としてございまして、その中に幹事会ということで、私ども部局長クラスの幹事会が置かれていまして、その中で東京都の提唱によりまして、東京都以外の開催地の会場の整備費用、輸送、セキュリティー、こういった費用に関して開催地ごとに精査をして関係者間で共有していこうということで、作業チームというのが立ち上がりました。私どもの千葉県の場合ですと、来週その作業チームが本格的に立ち上がるんですけども、その中で今、メッセさんからも御指摘がございました。確かにまだ使用期間等決まっておりません。私どももきちんとそれを組織委員会等に再度、何回も今までも申し上げているんですが、早く出していただくようにあわせて伝えさせていただきたいと思っておりますので、御了解いただきたいというふうに思っています。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長 先ほど順天堂の内藤委員から御指摘をいただきました競技普及、あるいは機運醸成につきましての大学、学生の方々との連携につきまして、私ども、少しずつ取組をして、先ほどお話がありましたように順天堂大学の皆様には非常に御協力をいただいております。また、担い手ということで、この間は教員を目指す学生の方との連携をさせていただいたんですが、それ以外にボランティアを初めとするさまざまな活動をしている学生の皆様との共同作業を進めております。こちらにつきましても、今後この取組を続けてまいりたいと思っておりますので、またよろしくお願ひしたいと思っております。

あと、観光及びボランティアに関しましては、後ほど御説明をいたしますが、いわゆる都市ボランティアと呼ばれる県内でのオリンピックに向けたボランティア活動につきまして、ただ

いま県の方針の策定作業を進めております。今いただきました御意見について、まだこの場でこういう形でという御報告はできないのでございますが、方針の作成の中で取り組ませていただきまして、また御報告をさせていただければと思っております。

○石井議長 ありがとうございます。

遠山部長もはっきり言わなかったけれども、要するに、国等の三者協議がちょっともたもたし過ぎているんですね。だから、その下の準備がどうしても遅れがちになっているんだろうというふうに思いますね。だから、県も少しずれて遅いんでしょう。この間、内田課長にも「何をやっているんだよ」と僕はちょっと文句を言ったんですけども、全般的に遅れ気味ですから、県が、ここはひとつ旗を立てて早くやるという方向でいろいろ議論を進めていただければというふうに思います。

ほかに何かございますか。

○飯沼委員 オリンピックとパラリンピックが、千葉市幕張ではオリンピック3種目、パラリンピック4種目、それから一宮町でサーフィンということでオリンピックが行われますが、我々、ここにいる全員は、幕張がどこにあるかとか、一宮町がどこにあるかというのは知っていますけれども、全然知らない人もたくさんいらっしゃるわけです。幕張というのも千葉市幕張なんですけど、これも知らない人が多くて、幕張って名前は知っているけれども、どこにあるかわからないとか、そういう人がたくさんいます。ぜひオリンピック・パラリンピックが行われる場所はここですと、一宮町というと普通、多分中京地区の人は名古屋の一宮を思うかもしれません。ぜひ、まだ東京都以外の埼玉とか神奈川はそういうアピールをしていないようですので、いち早く千葉市幕張、一宮町をアピールしていただいて、ここでオリンピック・パラリンピックが行われるぞということを大いに発信していただきたい。NHKさん、よろしくお願い申し上げます。

○石井議長 ありがとうございます。

○吉開委員 今、飯沼委員から御指摘がありましたけれども、NHKも東京オリンピック、パラリンピックが開催される2020年に向けまして、千葉の魅力を海外に発信していくという取り組みを始めています。NHKは、総合テレビ、BSなどに加え国際放送を行っています。その中の英語による国際放送「NHKワールド」で、来月2月8日から2月27日の間、千葉の魅力を伝える取り組みを行います。その中で、今お話がありました一宮町につきましても紹介していく予定です。詳しくは千葉放送局のホームページに今掲載していますのでご覧下さい。また千葉の魅力を海外に発信する取り組みをこれから3年半かけて強化していきます。皆さんにも

丁寧にご説明していきたいと思っておりますのでどうかよろしく願いいたします。

○石井議長 ありがとうございます。

やっぱりNHKが放送するとしれないじゃ、これは随分違うんですね。大いにやっていただいて、それから、これは英語放送だよ。だから、ここにいる人も多少英語がしゃべれないと、聞けないと中身がわからないので、少し勉強したほうがいいんじゃないかと思えます。

この間、有名なトランプさんの就任演説を聞いた人がいましたけれども、解説が、あれは英検2級程度だと言っていましたね。英検2級程度の英語だからと、そう言われてみたらよくわかりました。ですから、あの程度で大体大丈夫だと思いますから、これを機会に、そういう方面にも注目したいと思えます。

それから、飯沼さん、観光協会の会長から意見が出ました。その前には内藤先生からも出ましたけれども、やはり観光というのは一つのポイントであって、パラリンピックとオリンピックは、この期間中で済んでしまえばそれで終わりなんですね。だけれども、千葉県の長期的な戦略としては、やっぱり観光って非常に大きな戦略だというふうに思いますから、そういうものにどうやってつなげていくかというようなこともすごく大事な話になると思えますので、これもまたこの会議でもいろいろな意見を出していただければと思えます。

それでは、今までのところで、よろしゅうございますか。

では、議題の次に進みたいと思えますが、事務局から議題（3）千葉県の戦略に係る取組状況について説明をお願いいたします。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長 御説明をいたします。

本県開催競技の普及・振興 平成28年度を取組状況につきまして、資料3-1をご覧くださいと思います。

資料3-1に書かれております県内開催競技の普及・振興でございますが、こちらにつきましては、前回の会議でも御説明いたしましたが、県では、幕張メッセで開催されるオリンピック3競技及びパラリンピック4競技につきまして、県民の競技に対する理解を深めるとともに競技人口の増加を図るため、競技団体との協力のもとで体験会やトップアスリートとの交流などの普及イベントを実施しております。前回会議の後、10月から12月にかけてでございますが、まず佐倉市で小中学生向けのレスリング教室、柏市でフェンシングのトークショー及び体験会、続きまして千葉市でテコンドーのトークショー及び体験会を開催いたしたところでございます。なお、柏市と千葉市のイベントでは、先ほど御指摘もございましたが、大学生が受付や会場整備などのボランティアとして積極的に参加をいただいております。こちらで共同作業をさ

せていただいたところでございます。

また、パラリンピックの競技普及につきましては、私ども、担い手育成というところで今力を入れたいと思っております、10月でございますが、10月29日のところで袖ヶ浦市の臨海スポーツセンターでシッティングバレーボールの体験会を行っております。こちらは総合型地域スポーツクラブの指導者を対象とした体験会でございます。こちら、先ほど御指摘もございました順天堂大学のほうで教員を目指す大学生を対象としたゴールボールの体験会を実施するなど、担い手の育成に向けた取組も進めておるところでございます。

3-1につきましては以上でございます。

続きまして、資料3-2を御説明させていただきたいと思えます。

都市ボランティア分科会の設置でございます。先ほどボランティアにつきまして御指摘をいただいたところでございますが、現在の取組につきまして御説明をさせていただきます。

前回会議でも御紹介をいたしました、大会関連ボランティアに関する機運醸成、あるいは都市ボランティアの効率的な確保・運用を図るために、専門部会8、機運の醸成・国際交流の促進専門部会のもとに都市ボランティア分科会を設置することといたしました。分科会の構成は資料の中ほどに記載してございますが、県、市、町に加えまして関係団体、あるいは高校、大学の関係の皆様からも御参画をいただいているところでございます。

裏面にこの分科会の体制図を書かせていただいております。左側にあります専門部会8の下に都市ボランティア分科会を設置したところでございます。この分科会でございますけれども、一昨日、1月25日、第1回を開催いたしまして、2020年に向けましたボランティア推進方針について協議をいたしました。今後は、もう既に動いております東京都等とも連携を図りながら、この分科会を中心といたしまして県のボランティアの方針を策定いたしまして、推進会議にお諮りをしたいと考えております。その後、平成30年夏には都市ボランティアの募集に向けて進めたいと考えておまして、多くの県民の皆様がボランティアに参画できるような体制づくりの検討を行ってまいります。

資料3-2、ボランティアは以上でございます。

続いて、資料3-3でございますが、第6回推進会議における主な意見と対応について御説明をいたします。こちらは、前回の推進会議における委員の皆様からの御意見と対応をまとめたものでございます。

まず一番上の段、増田委員からのサーフィン会場の交通アクセスについての今後の準備につきましてですが、オリンピック史上初めて開催される競技であるために、組織委員からもまだ

具体的な計画が示されておりませんが、県といたしまして、大会の成功に向けて関係者と連携し着実な準備を進めてまいりたいと、このように考えております。

続いて裏面になりますが、裏面の2段目でございます。岩田委員からの御意見でございます。千葉県で開催された国体を精査し、県民が一丸となって対応する体制をつくる、そういうムードをつくっていただきたいという御意見でございます。私ども、関係機関、関係者で、2010年に開催されましたゆめ半島千葉国体の報告書の情報の共有を図ってまいりたいと考えております。この情報をもとに、2020年の大会開催を機に本県を訪れる方の受入体制整備等につきまして官民一体となったオール千葉体制で取組を推進してまいりたいと考えております。

このほか、事前キャンプや競技普及などに関します御意見につきまして、今後専門部会等におきまして検討してまいりたいと考えております。

資料3-3につきましては以上でございます。

議題(3)につきまして一括で説明させていただきました。

○石井議長 ありがとうございます。

今、ボランティアについての説明もありましたけれども、専門部会のメンバーって、これでいいんですかね。もっと入れたほうがいいとか、いかがですかね。それこそこういうところへ大学が入るとかというようなことも考えたほうがいいと思うんですが。

○夏目委員(代理) 恐れ入ります。成田空港でございます。

千葉県でも都市ボランティア分科会が立ち上がって活動を開始したということで、安心してるところです。大会のボランティアは組織委員会が一元的に検討を進めていくので、そこである程度整理されたボランティアが空港にも派遣されてくると想定しておりますが、都市ボランティアに関しては、先ほどの説明にもありましたように東京都も動いており、千葉県と東京都の都市ボランティアが空港で活動することになると考えております。

空港をご利用された方は御存じのとおり、空港内にはご案内カウンターが設置されており、それをサポートする形で案内のボランティアが活動しております。また、大会期間中、選手団については大会ボランティアである程度サポートができると思いますが、観光も含めていろいろなお客様に対して、千葉県内に向かう方はこちら、東京都に向かう方はこちらというふうに、案内はできませんので、例えば、千葉県と東京都で混成チームを組んでいただいて活動することについても検討が必要ではないかと思っております。

いずれにせよ、横の連携をうまくとっていただいて、現場の状況に合わせた案内ボランティアのあり方について検討を進めていただけるとありがたいと考えております。

○石井議長 どうもありがとうございました。今のは大変貴重な意見だというふうに思いますね。例えば語学ボランティアといっても、英語だけじゃないんですよね。いろいろな国があるわけですから、これをやっぱり組織的に統括するということが絶対必要なんですね。それは県がきっちりやらないとうまくいかないんじゃないかと思いますので、このところはひとつよろしく、県のほうでお願いしたいと思います。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長 今おっしゃられたとおり、我々も含めまして各ボランティアがどのような形で連携していくか、東京都のボランティアの協議会と、成田空港様も御参加されている協議会でございますけれども、さまざまな形で連携方法については議論してまいりたいと思っております。

また、リオで視察をしたときにも、幾つか専門のボランティアが集まってチームを組んでいたというお話もありましたので、そういった形の対応などできないのか、我々としても今後十分に検討してまいりたいと思っております。

○石井議長 ありがとうございます。

これはこれからの話だと思いますね、ボランティアの話は。僕のところにも、来ているのはいろいろなものがありますね。例えば老人のいろいろな集まりでも、やりたいというようなものもあるんですよね。オリンピックに参加したいという気持ちが非常に強い。そういうものをまとめるというのは本当に大変だと思いますよ。でも、このところはオリンピックを成功させるかどうかという大きなポイントになりそうな気がしますので、県のほうも早急にこれは専門部会、分科会等で詰めていただきたいというふうにお願いをしておきます。

ほかに御意見ございますか。田村さん、どうぞ。

○田村委員 資料3-1のスポーツの普及というところで、参加者を見ますと、指導者を対象としたとか、1回だけ小学校とか高校、大学を集めてというふうに書いてありますが、この中でパラリンピックに対しての障害者を対象にしたというものもあるのでしょうか。

○石井議長 この辺はどうですかね。どちらかという、千葉市が力を入れてやっているように僕は見えるんですけども。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長 例えば私どもで障害者スポーツの普及・振興を図る中で、当然障害をお持ちの方々が一緒に競技の紹介などをしていただくことは行っておるんですけども、具体的に障害者の方を対象にしたという形では、今はまだ進めておりません。その部分についてはまだ進んでいない状況でございます。

ただ、先ほど議長からおっしゃられたように、千葉市のイベントなどではやはりいろいろな

方々が参加できるようなイベント形態にはなっておりますので、そういったことも今後取組を広げることで、できれば一緒にユニバーサルスポーツという形で参加いただければとは考えております。

○田村委員 障害を持つ方たちで、現在高校とか大学でスポーツをやっている、障害難度とか、その程度によってパラリンピックに出られるということも皆さん知らないと思うんですね。そういうものも含めて、やっぱり応募するとか、障害を持つ人によって、やっぱりそういうところに出づらいいということもないような方向で、そういうことをやっていっていただきたいと思っております。

○石井議長 ありがとうございます。

参考なんですけれども、実はさっき言いましたけれども、千葉市がえらく力を入れているんですね。本を2冊ぐらい出しているんですよ。僕も読んでみたけれども、これは大変参考になりますから、何かちょっと機会があったら読んでおいたらいいと思います。

それから、世界でいうと、日本では障害者スポーツというのはまだ特殊だというような見方をされますよね。世界でいうと、やっぱりイギリスみたいです。イギリスは学校の授業の中にそういうものを取り入れて非常にうまくやっているというようなことなので、実は先般、千葉市の担当者と、それから民間からも行ったほうがいいだろうというので商工会議所からも団をつくってイギリスに行きました。そうしたら、やっぱり全然感触が話を聞くと違うんですね。だから、何となく我々が考えている障害者スポーツとイギリスは違うなという感じがします。ですから、今度東京パラリンピックを機会にそういう方向に行けばいいなと思っているし、現実には千葉市内の学校でもそういうものを取り入れて始めたところが出てきましたので、これは県に大いに指導力を発揮していただければというふうに思っています。これは意外とオリンピックとパラリンピックのポイントになりそうな気がしています。

○夏目委員（代理） すみません、もう一点ありまして、都市ボランティアというのは、オリンピックのためだけではなくて、その後の活躍も考えるとレガシーになり得るものだと思います。今、内藤委員や田村委員からお話がありましたが、オリンピックの後、千葉県としてどういう社会を目指すのかということがあったほうがいいのかなと。その中で、こういう人たちがどうあるべきか、大学の教育はどうあるべきかということを議論することで、息の長いレガシーとして千葉県に根づいていくと思いますので、例えば都市ボランティアもオリ・パラの後はこの活躍の場がありますというような姿を見せていくことが大事ではないかなと思います。

○石井議長 ありがとうございます。本当に御指摘のとおりですね。

ほかにございますか。

それでは、次の議題（４）になりますか。説明をお願いします。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長 議題（４）でございます。その他ということでございます。２点御説明をいたします。

まず１点目でございますが、資料４－１をご覧いただきたいと思います。

この資料４－１は、先日予算の記者発表と同時に公表させていただいたものでございますが、東京オリンピック・パラリンピックに係る県関係の総経費の試算を御説明いたします。

オリンピック・パラリンピック両大会に係る県関係の経費につきましては、昨年２月時点で合計130億から180億円という試算を県議会にお示しをしたところでございます。今回、サーフィン競技の県内開催が決定したこと、さらに平成29年度当初予算案等を踏まえまして改めて試算を行いました結果、１にございます平成26年度から平成32年度までの７年間で見込まれる総経費といたしまして、トータルで合計150億から180億円という試算値を公表いたしました。この試算値につきましては、昨年２月にお示ししました総経費のいわゆる上限の180億、こちらの範囲内にはおさまるという試算になっております。

資料の中ほど、１の県関係経費の概要でございますが、私ども、今回試算に当たりましては県関係経費を２つに分けまして、そのうち、（１）2020年大会開催に当たり直接要する経費ということで27億円と、それから、（２）の大会開催に伴い前倒し実施し、大会後もその効果が継続する取組に関する経費として121億円の２つに分けて試算をいたしました。

まず、（１）の2020年の大会開催に当たり直接要する経費につきましては、先ほど述べました27億円でございますが、この内容につきましては昨年２月から大きく変わってございません。キャンプ・国際大会の誘致・受入、アスリート強化支援、オリンピック・パラリンピック関連施設整備の市町村への貸し付けなどで、それぞれの経費を積み上げますと約27億円となるところでございます。

続きまして、（２）の大会開催に伴い前倒し実施し、大会後もその効果が継続する取組に関する経費は、今回試算におきまして新たに下線を付しました４つの取組を追加いたしました。１つがサーフィンの競技開催に伴う取組でございます。先ほどサーフィンの競技会場の整備につきまして御説明いたしましたが、これらの取組で約２億円、そして、新たに観光トイレ等の整備を追加した観光客受入体制整備で22億円、鉄道駅のバリアフリー化など交通施設のバリアフリー化等で７億円、さらにテロ対策など危機管理対策等で１億円を追加いたしまして、合計

で約121億円を見込んだところでございます。この（２）の取組につきましては、大会後も将来にわたりまして経済・観光振興、地域の活性化、スポーツ振興、さらには県民生活の向上等の効果が期待できる取組と考えております。

（１）と（２）を合計いたしますと148億円、丸めまして約150億円となりますので、これらに加えて建設資材の高騰など、今後の支出の上振れ等に対応する予備費を（３）に記載のとおり30億円を見込みまして、（１）から（３）の合計約180億円を県の総経費として試算したところでございます。

なお、（３）の一番下に米印で書いております仮設整備など大会運営そのものの経費につきましては、これは県が負担すべきものではないということでございます。県の試算には含めておりません。

続きまして、資料４－２をご覧くださいと思います。

資料４－２、こちらは昨年12月、組織委員会が公表した資料、出典がございましたようにプレスリリース資料でございますが、組織委員会が行う大会全体の経費に関しまして、組織委員会予算を約5,000億円、東京、国など、その他主体の経費を約1兆1,000億円から1兆3,000億円、合計で1兆6,000億円から1兆8,000億円とする全体像を明らかにした、その資料でございます。本県を含む会場を有する関係自治体といたしまして、仮設整備など大会運営に関する経費は、立候補ファイル、大会開催基本計画、いわば大会の基本となる計画の原則に基づきまして、これは組織委員会が実施することが原則と考えております。

資料４－３をご覧くださいと思いますが、昨年末、12月26日に関係自治体の首長が共同いたしまして、この資料４－３にございます要請書を東京都、組織委員会、国に提出したところでございます。

総経費に関する資料は以上でございます。

続きまして資料４－４をご覧くださいと思います。こちら、今後のスケジュールを記載したものでございます。

この資料では、本日の第7回推進会議以降の当面の予定を概略という形で記載させていただいております。まず、本日お示しいたしました行程表をベースにいたしまして、今後専門部会等におきまして関係者の皆様の取組を伺いながら、いわゆるオール千葉の全ての主体によります行程表を作成したいと考えております。次回の推進会議につきましては、平成28年の取組の総括、あるいはオール千葉の行程表の検討状況の報告などを議題といたしまして、時期はまだお示しできないんですが、来年度開催したいと考えております。

事務局からの説明は以上でございます。

○石井議長 ありがとうございます。

ただいま幾つか説明がありました。質問等ありましたらお出しいただきたいと思います。

これ、予算の30億というのは、いわゆる予備費ね。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進課長 30億は、いわゆる予備費的に、今後の見込みが何かあればということの費用でございます。

○石井議長 何かございますか。

それでは、ほぼ予定どおり説明を終わりました。今日はどちらかという事務局から説明を聞いたことが多いと思いますから、資料を持ち帰りまして、またいろいろ出ましたら、直接県のほうにでも結構ですから照会をしていただければと思います。

ただ、いずれにしても、感じとしてちょっと遅れているという感じは私しますので、これはちょっと急いで至急詰めてください。文章に書くと、専門部会、あるいは分科会で決めますとなっているけれども、そういうところを早急に詰めていただかないと、なかなか今話の出た大学の協力の問題だとか、ボランティアの問題とかまでいかないの、ぜひそれはよろしく、県がリーダーシップを持って進めていただきたいということを最後に申し上げたいと思います。

意見はございますか。よろしいですか。

それでは、本日の会議はこれで終了させていただきます。ありがとうございました。

(5) 閉会

○司会 皆様、どうもありがとうございました。

本日の議事内容につきましては、議事録を作成し、千葉県ホームページ上で公表いたします。公表する内容につきましては、後日確認をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

本日は、非常に限られた時間で行いましたので、さらに今後、お気づきの点などございましたら事務局まで御連絡いただければ幸いです。

それでは、これをもちまして会議を終了いたします。

本日は大変お忙しい中、ありがとうございました。